

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (51)



～ 「子ども」が主語となる学校へ ～

石垣市立石垣小学校 校長 磯部大輔

毎朝スマホに現れる「〇年前の今日の写真」。  
「あーこれこれ！ここ行ったんや。」「これおいしかったなー！」と、あの頃へタイムスリップ。でも、なんといっても元気が出るのは「我が子たちの写真」。あー、かわいかったなあ。こんな時があったね。ん、私たちも若い！など、朝から元気をもらっています。そのかわいい（かわいかった？）我が子たちも上は就活中、下は思春期まっただ中。近頃考えるのは、はたして「自分で人生を切り拓く」力をつけてあげられたのか？ということ。よかれと思って手を貸しすぎたのでは……。この反省をなんとか今の石小っ子育成に活かさないものか。うーん、スマホ片手に反省する朝のひとつとき。



石垣小では、「自ら学び共に育つ」という教育目標のもと、諸活動に取り組んでいます。これまでの「言われたことを言われたとおりにできる力」、「みんなと同じことができる力」では、この先の時代を生き抜くことがむずかしいことは周知のとおり。受け身で「〇〇してもらう」ことを待ち続けるのではなく、主体的に自分で考えて「〇〇をする」ということが必要不可欠です。ただ、口で言うのは簡単ですが、これまたなかなかむずかしい。本校では目の前にいる子どもを見て、「子どもが主語となる学校づくり」を日々考え、取り組んでいるところです。今日はその一部を紹介します。

「ぼくはこの3ヶ月間で勉強に対する価値観が変わりました。これまでは『やらされ感』があり、嫌な気持ちでやってただけど、『自由進度学習』などを通して、自分からやりたいと思うようになりました。勉強って楽しいんですね。」

これは、6年児童が6月の振り返りに書いた言葉です。「自由進度学習」というのは、一単元分の学習時間（6～15時間程度）を子ども一人一人が自分で学習計画を立てて学習するものです。座っていれば教えてもらえるというわけではないので、自分から行動しないと何も始まりません。

また、こんな振り返りもあります。

「ドリプロが始まる時は、『大変そうだな～。めんどうだな。』と思っていたけど、始まったら、『楽しい！』、『もっとやりたい！』と思うようになりました。自分自身で変わったことは、自分から調べて学ぶことが、丁寧に、正確になったことです。」

この「ドリプロ（ドリームプロジェクト）」とは、自分で決めたテーマについて計画を立てて学び、「得意」や「自分に合った学び方」を見つける探究学習です。主に総合的な学習の時間で取り組んでいますが、個人個人でテーマは異なります。例えば、「宇宙について調べ、夢のために役立つ」、「韓国語で会話できるようになる」、「スケボーでオーリーを習得する」など、自分の得意や興味関心に基づいたも

のです。子どもたちは思い思いの場所で、夢中になって取り組んでいます。

これらの取組は「子どもが主語となる学校づくり」の一つの手立てです。他にも、家庭学習強化月間や形式的な学習規律、コンクール出品のための取組などの見直しを行ってきました。それらはすべて、「子ども」を主語で考えたときに、「子ども」がそれに取り組むことについて「なぜか？本当か？大切か？」の視点で再構成した結果です。もちろん、これまで続けてきたものを見直すのは、痛みも伴います。会議でも結論が出ないケースが度々あります。でも、昨年時間をかけて全職員で創り上げた教育目標「自ら学び共に育つ」を最上位目標に置くことで、方向性を確認しています。目の前の子どもが社会に出るまでに今必要なことは何か？今やっていることは、自分で意思決定しているか？そもそもそれは必要なのか？などを考え、これからも試行錯誤を重ねていくしかないと思っていますところす。

やっぱりそうだよなあ。親や先生が「こうさせたい！」よりも、子どもが「こうしたい！」方が大切。そのためにも教えすぎず手を貸しすぎず、一人一人の子どもにもっと任せる覚悟を持たなきゃだなあ。そうやって「自分で人生を切り拓く力」の土台を身につけて欲しいよな。うんうん。じゃあ次は……。なんてことを考えていると、「ちょっと、いつまでスマホ見てるの！もう学校へ行く時間でしょ！」という妻の声。 おっとあぶない。素早く準備して、未来の宝である石小っ子に会いに行ってきたーす。